

「ベツレヘムの星」考

作花一志（京都情報大学院大学）

前回、今回、西村さんより「ベツレヘムの星」について新しい解釈が紹介されました。この小文では筆者の惑星集合の計算結果と恣意的な解釈についてお話します。

この星についての記載は新約聖書のマタイ福音書のみでその出現自体にも疑問があります。当時の大文明国のローマ帝国にも漢帝国にもこの記録は伝わっていないのですから。しかし文献考証はさておき、とにかくマタイ福音書第2章の記述通り考えてみます。「あれは誤記事だ、これは捏造だ。」なんて言ったらそこでおしまい、そんな夢のない話はやめましょう。

東方の博士たちがエルサレムに来てこう言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私達は、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」・・・（中略）・・・すると見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んでいき、その上にとどまった。

まず「東方」とはどこでしょうか？ユダヤから見て東方、その中で文化の中心といえばバビロンを指すと考えるのが妥当でしょう。バビロンは古代オリエントの文化都市であり、占星術も発達しそこには星占いに長けた博士（＝マギ）もいたはずです。東方の博士はこの星をかつてバビロンで見て、ユダヤに着いてから再び見たというのだから、同じ現象が2度あって



1回目はバビロンで西天（ユダヤの方向）に見た。

2回目はユダヤに着いてから見た、この日がイエスの誕生日。

と考えられます。

では「ベツレヘムの星」の出現はおおよそいつ頃でしょうか？当時ユダヤはローマの属国でしたが、ヘロデ王が在位していました。新約聖書によると彼は新しく生まれた子がユダヤの王になることを恐れて、乳飲み子の

イエスを殺そうとしました。そのことを天使ガブリエルから聞いたマリアとヨセフはエジプトに逃れ、イエスは幼年期はエジプトで暮らします。ところがユダヤにはヘロデという王は複数いて、父ヘロデ大王が亡くなり、息子のヘロデが継いだのが BC 4 年といわれています。イエスが十字架に架けられた時の王は息子のヘロデですが、生まれた時はどちらかわかりません。細かいことは専門家に任せて、王位継承時期の前後と考えましょう。

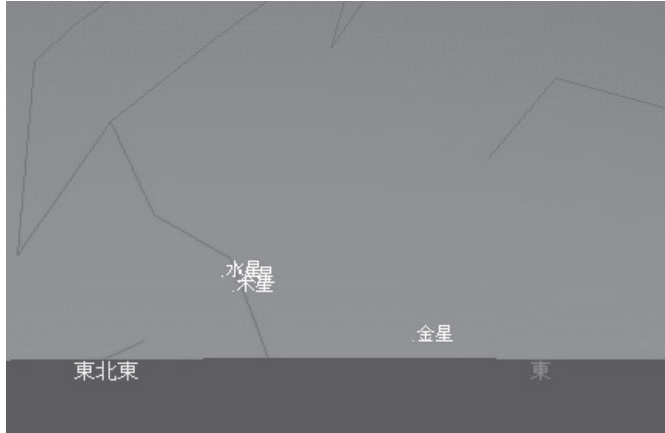
では「ベツレヘムの星」の候補として何が考えられるでしょうか？**超新星・新星・変光星・彗星・惑星集合**・その他……。でも「同じような現象が 2 度あった」という条件を重視すると、初めの 3 つは恒星の現象ですから不適です。彗星出現は夕方西の空に現れ、数日後には見えなくなり、その後日の出前に東天で見えるということが多いので候補となりえます。実際 BC5 年に現れていますが、その記録は中国だけです。この条件にふさわしいのはやはり惑星集合と考えるのがベストでしょう。

BC7 年から AD1 年までの 1° 以内の惑星会合のペアは 10 組以上も算出されますが、バビロンからユダヤまで歩いて旅をするならその間隔は 2～3 ケ月でしょうから下表のように 3 件に絞られます。

年月日	時刻	惑星名	星座
BC7 年 6 月 8 日	後半夜	木星, 土星	うお
9 月 12 日	終夜	木星, 土星	うお
12 月 17 日	前半夜	木星, 土星	うお
BC2 年 6 月 3 日	日没後	水星, 火星	ふたご
6 月 15 日	日没後	金星, 木星	しし
8 月 24 日	日出前	水星, 火星, 木星	しし
1 年 8 月 9 日	日没後	水星, 火星	おとめ
9 月 12 日	日没後	水星, 木星	てんびん
11 月 3 日	日出前	水星, 金星, 火星, 木星	てんびん

BC7 年に木星・土星がうお座で 3 回連続して会合を起こしていますが、この 3 連会合は 400 年前ケプラーが計算（もちろん筆算）の上で発見したものです。その 2 回目または 3 回目に重なり合った木星土星がベツレヘムの星とすると、クリスマスは 9 月 12 日または 12 月 17 日となります。ただ両惑星は 1 度も離れているのが難点です。3 連会合は非常に希な現象で、実際に起こる年を計算してみると 1800 年から 2300 年の間に 1821 年、1940 年、1981 年、2279 年のわずか 4 回のみです。しかしケプラーは 1604 年に自分が見たような超新星を想定していたようです。

この表のうち最も接近するのは **BC2年6月15日**の金星と木星で、その2ヶ月後の**8月24日**の日の出前にししの足元で起こったに起こった**3惑星**会



合は最も目を引くような天象だったと思われま
す。薄明の中で
これら惑星だけ
が見えるので
から(左図はス
テラナビゲータ
によって作
成)。ただし地
平線近く日の
出前の短時間な
ので、その時雲

つたら、東に山があったら全く気づかれず見逃してしまいます。「ベツレヘムの星」がユダヤ以外には記録がないのはそのためかもしれません。もちろん今の日本ではとても無理ですね。

AD1年11月2日の日の出前に水星・金星・火星・木星の4惑星がてんびん座で集まっています。それに先立って**8月9日**に水星と金星が、**9月12日**に水星と木星が接近しています。4惑星が集まることは希で注目したいですが、あまりコンパクトではなく大きな明るい星の出現とは言いにくい
です。それにヘロデ王の王位継承時期から離れてしまうのも難点です。なお、この間**5惑星**集合は起こっていません。

筆者は「ベツレヘムの星」とは

BC2年6月15日の日没後、バビロンで西の空しし座に金星と木星の大接近を見た東方の博士は、救世主の誕生を信じてその方向へ旅たった。8月にユダヤに着き8月24日の日の出前に見えた3惑星集合がベツレヘムの星の正体であろう。

と考えています。これによるとクリスマスは夏になり、ホワイトクリスマス、そりに乗ったサンタさんなどは南半球でないと出会えなくなりますね。

参考文献

作花一志・中西久崇『天文学入門』オーム社 2001

下記もご覧ください

<http://www.asahi-net.or.jp/~nr8c-ab/ktisrbethlehem.htm>

<http://astro.ysc.go.jp/izumo/christmas.html>

http://www.geocities.jp/todo_1091/bible/jesus/011.htm